

「親なき後の問題」に備える



障がいがある子を親が支援している場合に、親が先立ったときや病気、高齢化などでサポートできなくなったとき、子の安心・安全な生活をどのように続けていくかという問題を「親なき後の問題」といいます。この問題は、実際に何かあった後に考えるのではなく、親が元気なうちにとどのよう備えるかが大切です。

例えば、まずは10年後・20年後には自分たちはどのように変わっていくか、どんな暮らしをしたいかといった、家族それぞれの将来を話し合ってみてはいかがでしょうか。それぞれの生活場所や収支の変化などに応じて、用意しておくものや使いたいサービスなどが少し見えてくるのではないかと思います。

こうした考えをまとめるには、「自分らしさ」ノート^①が役立ちます。普段の暮らしぶりや本人への関わり方、病歴、将来への備えなども書き込めます。ひとつのかたちとして残しておくことは、もしものことがあった場合にも、支援関係者へ自分たちの望む暮らしを伝える手段になります。ぜひご活用ください。

※「自分らしさ」ノートは峡東地域障害者法人後見準備委員会（事務

局・笛吹市社会福祉協議会后見センターふえふき）が中心となって作成しています。詳細は後見センターふえふきへお問い合わせください。

☎ 055(265)5182
FAX 055(265)5183



「同じ問題に悩む人たちに、ぜひ使ってほしい」
峡東地域障害者法人後見準備委員会の皆さん

■問合せ先

障がい者基幹相談支援センター
☎ 055(262)1274
FAX 055(262)1276